

Singapore Sketch Book

シンガポール日本通運株式会社
元航空貨物支店長
寺田 哲也 氏



総合物流大手として、日本だけでなくグローバルに事業を展開する日本通運。そのシンガポールにおける現地法人である、シンガポール日本通運株式会社で航空貨物支店長を務められた寺田氏に、シンガポールでのビジネスと生活について伺いました。

Q シンガポールでは何年間過ごされましたか？

5年8ヶ月です。

Q シンガポールで働くビジネスパーソンの印象はいかがでしたか？

シンガポール人のビジネスマンは活気があり、新しいモノ好きで、上昇志向が強いと感じました。たとえば、シンガポールは東南アジアの中でもスマートフォンの普及率がトップなんです。また、ビジネスの相手が本当に国際的です。私自身がビジネスで関わることができた相手だけでも、中華系、マレー系、インド系シンガポール人、インドネシア人、タイ人、米国人、豪州人、欧州系と幅広く、居ながらにして異文化交流の機会を得ることができました。

Q 働く場所、暮らす場所としてのシンガポールの印象はいかがでしたか？

シンガポールには米・欧・日の多くの大企業の APHQ (Asia Pacific HQ、アジア太平洋地域のヘッドクォーター) が集まっていることから、地域対応を行うようなビジネス活動を、出張することなく進めることができるという点で、大変メリットが大きいと思います。

暮らす場所としては、何よりも街がキレイで安全であること、医療施設・レベルが十分であること、外国人子弟にとっての教育機関が整備されていることから、家族帯同でも安心して生活できると感じました。海外出張の際に家族を残しておいても、安全面での心配は全くありませんでした。

Q 日本との違いを感じられた点について教えてください。

ビジネスの面での違いとしては、国として法人税を低く保つことで、多くの外国企業の APHQ、更には Global HQ を呼び込んでいること、キャピタル・ゲイン非課税により多額の外国マネーを取り込んでいることなどでしょうか。また、景気動向への素早

い対応(2009年度の不況時企業支援策“Job Credit Scheme”や、好況時の就労ビザ緩和による労働力需給緩和、総賃金水準の競争力維持といった迅速で柔軟な対応など)といった、“国によるビジネス環境づくり”が、直接的かつ徹底しているという印象を受けました。

暮らしの面では、幹部社員・職員はハード・ワーカーが多いと感じましたが、それ以外の一般ワーカーは、日本に比べ遥かに“欧米化”が進んでおり、いわゆる“ワーク・ライフ・バランス”の点では、だいぶ進んでいるなという印象を持ちました。

Q 休日はどのようにお過ごしになっていましたか？

ゴルフを歩いてラウンドしていました。コース自体は7kmもないところだったのですが、真っ直ぐ飛ばないため、11kmは歩くことができました。

Q 外食はどのようなところをご利用になっていましたか？

仕事上の会食が無い時は、基本的に自炊して、健康的な食生活に努めていました。外食で、私に選択権がある場合には、和食、それもめいめい好きなオーダーができる居酒屋系を利用することが多かったですね。シンガポールに来てから、菜食中心主義を始めました。

Q シンガポールでのビジネスや暮らしを通じて気付かされたことなどはありますか？

さまざまな階層の多民族が、しのぎを削って成長を続けているのがシンガポール経済の特質のように思います。日本はそれに比べ、異文化交流に慣れていない“均質国家”ですが、就労ビザ緩和による労働力創出、総賃金水準の競争力維持、消費・購買力創造といった対応を真剣に検討すべきであると、シンガポール駐在を経験して強く感じましたね。